

真下 紀子

発行
真下紀子事務所
旭川市 3条16丁目左7号
TEL 0166-20-0808
FAX 0166-20-1616



道は知事公約とともに国の予算を受けた15年度補正予算約880億円と、約2兆8千万円の16年度予算を提案しまし

られています。消費増税や法人税減税によるいつその格差拡大から道民を守り、いのちとくらし最優先の予算編成が北海道に強く求め

とができる北海道予算へと提案し、意見をやりとりしました。

命とくらし最優先の道予算の編成を！ 子育てと雇用支援を、安全安心の食料・エネルギー基地へ

一部の大企業が潤う一方、非正規雇用が4割を超え、現金給与額が減少している本道では、生活の困窮、少子化や若年者の流出にも歯止めがかかっていません。TPP締結への不安が、一次産業や中小企業の継承に困難を生じています。そのため国は、子育て支援・高齢者福祉を

た。予算編成では子供の貧困対策をはじめ子育て支援を重点として、道自らの雇用の正規化、TPPに反対し食料自給率を高めるための支援をすること、原発に依存しないエネルギー政策を提案しました。知事は「子育て支援についてはしっかりと取り組みたい」と答えました。



26日に、小松市議、真嶋市議とともに現地調査し、対策を提案していた花咲大橋にさっそく「すすべる注意!!」の注意喚起看板が2枚、設置されました。吹雪の中でもよく見える看板を確認してきました。車のスピードは控えめにしたいものですが、旭川市の対応の速さには、市民から歓迎の声が寄せられています。

JR北海道に旭川からも要請を 安全対策、利便性確保、情報提供

JR北海道の事故は、直近で旭川市内だけでも昨年12月嵐山トンネル内で火災事故に続き、今年1月の宮下通の変電施設の爆発、2月には嵐山トンネル内のケーブル損傷事故の発生によって、利用者に多大な影響を与えました。また、新幹線開業にともなう3月26日のダイヤ改正で、旭川 札幌間の「Sきつぷフォー」の廃止、旭川 新千歳空港間の直通の廃止に伴う乗継などに、不安と不満の声が広がっています。旭川の市民活動や経済活動、さらには観光客にも影響を与えます。



真下紀子道議は旭川市議

団とともに、旭川市としてJR北海道に対し、安全対策とともにSきつぷフォーの販売継続とSきつぷの有効期限延長、旭川新千歳空港間の直通廃止の再考などの利便性確保、旭川市への適切な情報提供を求めるよう、12日、西川将人市長あてに申し入れを行いました。

養護学校分校 標茶町にぜひ

「障害を持つ子どもたちに身近な地域でゆきとどいた教育を」と標茶町の標茶高校に釧路養護学校高等部の分校設置を求める運動が広がっています。真下紀子議員と宮川潤議員、佐野弘美議員は直接お母さんたちの声を聞くため、10日、標茶町に調査に行きました。

障がいある子40キロ離れた学校で寄宿舎生活

標茶町では障害を持つ子どもたちは約40キロ以上離れた釧路養護学校高等部 中標津高等養護学校に進学するしかなく寄宿舎生活を余儀なくされています。地元の標茶高校は日本一広大な敷地面積があり、総合学科で校内に食肉加工、乳製品加工、製菓製パン実習施設 酪農施設などがあります。標茶高校の施設を活用し、障がいを持つ子どもたちが卒業後地元で就職し暮らしていくために標茶町手をつなぐ育成会を中心に分校



設置の運動が広がりました。これまで標茶町では小学校入学、中学校入学などを契機にお母さんたち

が「N法のみみなみなプレイを設立し、放課後クラブ学習支援、相談サポート事業にとりくみ20人以上の利用があります。総責任者の中川すみれさんと、理事で育成会児童部会長の金澤紫織さんたちが子どもたちの入学のたびに壁を乗り越えてきました。専門職の若い職員たちが移住してきて子どもも生まれ、町を活性化させています。

町の人口を超す 署名1万1600筆

今度は通学できず高等部へ、分校設置を求めるお母さんたちから熱い思いをお聞きしました。金澤さんは「自分の子どもの高校入学をきっかけに2012年に幕別町で道内初の高等学校内に設置された養護学校の分校があることを知り、標茶にも標茶高校がある私の子には間に合わないけれど、これらの子どもや親のために生まれ育った町で進学し、社会生活を送ってもらいたい」と他の保護者らに相談し、分校

設置を求める署名にとりくみました。すでに25人の会員が賛同し、友人知人たちや町内を訪問して署名を呼びかけました。標茶町に分校ができれば、近隣の弟子屈町、鶴居村、厚岸町などからも通わせたいとの声も多く寄せられ、署名は町の人口約8千人を超える1万1601人分が集まり、池田裕二町長、教育長、道教委に提出しました。



育成会代表の橋本志津江さんは「寄宿舎生活はうまくいく子もいますが精神的に負担が大きいです。共働きやシングルマザーも増え、保護者の負担も大きい。標茶高校の充実した施設は、障がいを持つ子どもたちの就労にもつながる技術を学習できます」とのべ、若いお母さんたちと一緒に分校の設置を心から望んでいました。育成会副会長で自身の子も障害を持つ、日本共産党の渡邊定之町議は議会で分校設置を求めました。深見町議と調査に同行していただきました。

真下議員は、旭川での高等特別支援学校の設置実現のとりくみも紹介しながら熱心にお話を聞き、トランポリンがあるNPOの施設も見学しました。

東日本大震災が起きた2011年3月、真下議員は、厚岸町と浜中町の支援に入り、共産党町議らとともに国や道政へ被災地の実情を訴え、「グループ補助金」の実現に力を尽くしました。

ウニ被害 支援強めて

漁業組合などと懇談

日本共産党、真下紀子、宮川潤、佐野弘美の3道議は9日、厚岸町と浜中町を訪れ、昨年の急速に発達した温帯低気圧による被害状況、漁業の災害対策などに



ついて、若狭靖厚岸町長や松本博浜中町長、地元の3つの漁業協同組合と懇談しました。昨年の大雨の影響で地域が新しい漁業の柱として力を入れてきた「完全養殖」のウニが壊滅的な被害を受けるなど、どの漁業組合からも被害の深刻さが離され、国や道の水産業への支援強化が要望として出されました。また、東日本大震災で被災し「中小企業等グループ補助金」の支援を受けて復旧した浜中町の工場を訪れました。

